

ギョイコウのこと

ギョイコウのこと

今（二〇一〇年）から十年くらい前、無性に桜の花が好きだった。全国、桜の花を見て歩いていてという友人もいたけれど、私にはそんな余裕もなかったから、桜が見事だという噂をたよりに東京の街中をあちこちするのがせいぜいだった。

ある時、新宿御苑に緑色の花を咲かせるウコンとかギョイコウという桜があることを知った。世の中

にはバラ色ならぬ黄色いバラもあれば、ライラック色ならぬ白いライラックもあることだから、別段、桜が緑色でもかまわないようなものの、やはり桜は桜色しか想像できないような気もして、見に行くことにした。

ところが、行ってみて気がついたことなのだが、桜色の花は遠くからでもとてもよく目につく。だから、あそこに花が、ここにも花がと、お花見ができるのだ。しかし緑色の花というのは、あたり一帯の木々の緑に保護色さながら包まれていて、遠目にはまったくもって見分けがたい。

さいわい新宿御苑には園内地図というものがあつ

ギョイコウのこと

て、そこに当園ご自慢のウコンやギョイコウがしっかり書き込まれている。そしてその簡略な、したがって分かりにくい図面を頼りに、かなりの努力の果てに、お目当ての桜を見つけることができたのだった。

ちょっと距離を置くともう桜とは見えないその桜は、どれも近くで見るとかなりの大木で、たしかに緑色の花をいっぱいにつけていた。ウコンは一重の黄緑の花だが、ギョイコウのほうはもつと緑の色が鮮やかに深く、華やかな八重の桜だった。しかし去り際に、少し離れてからもう一度振り返ると、もう葉群に紛れて、それとは見分けがたくなっている。花そのものには言いかたく雅びな佇まいがあるのに、ふしぎに慎ましい桜だった。

正直、期待したほどには感動しなかったが、ともあれ、見たかったものを見たことで満足し、近くの人にも話していた。

ところが！ 数日後、火曜のI限の授業を終えて、8号館への道を歩いていた時である。目の前の細い若木に、何と「ギョイコウ」という名札がかかっているのが目に入った。驚いて見上げると、高い枝には、数は少ないけれど、つい数日前、新宿御苑で見たのと同じ緑色の花がぼちぼちとついている。

その時の気分はちょっと複雑だった。ウコンとギョイコウはあの新宿御苑の名物なのだ。そんな珍しい桜が、わが東京女子大にあるのは、うれしいには

ギョイコウのこと

ちがいない。しかし同時に、それとも知らず、わざわざ見に出かけた自分の馬鹿さ加減が悔しくもある。ギョイコウがある東京女子大がすごいのか、それとも東京女子大にもあるギョイコウだから、そんなにたいしたものではなかったのか。どちらとも決めかねるところだった。

御苑のギョイコウとは比べようもない心細げな若木で、その後も期待したほどには成長しなかったが、しかし私にとっては大切な一本だった。

そのギョイコウが、二〇〇七年の研究休暇を終えて久しぶりに出校したら、影も形もなくなっていたのである。どこかに移植されたのか、それとも捨てられてしまったのだろうか。今でも時々思い出しては考えているのだが、どなたかご存じの方は

sasaki.lab.までお知らせ頂けるとありがたい。

それともう一つ。ギョイコウとは漢字だどう書いて、どういう意味なのか。本気で調べれば何とかなりそうだと思いつつ、今日までうかうかと知らないままできてしまった。これも、おついでの際に教え頂けるとうれしいです。

(初出 ホ東京女子大 組合機関誌「アノン」二〇一〇年)

追記

・ギョイコウは御衣黄と書く。花の色が高貴な貴族の衣裳の萌黄色(もえぎいろ)に近いためだとか。

ギョイコウのこと

・花期はソメイヨシノより遅く、京都でも四月下旬らしい。